

# 開墾地に於ける適作物に就いて

野 田 興 太 郎

佐賀縣立農事試験場

開墾地に於ける適作物を知るために、次の如き特質をもつた原野を開墾して供試圃場とした。

- (1) 土壤の反應が極めて酸性なること (全酸度表土 41.7心土39.0)
- (2) 石灰の含量極めて少きこと (置換石灰0)
- (3) 磷酸の含量極めて少きこと
- (4) 磷酸吸收係數極めて高きこと (表土 1484 心土 1480)

開墾は昭和20年及21年の二回に行ひ、反復して試験を行ふことにした。試験區別は次の様である。

區號	區 名	過石	肥料 石灰	硫安	摺化 加里	堆肥	開墾
A	磷酸施用無石灰區	貫 15	貫 0	貫 5	貫 2	貫 200	新
B	石灰施用無磷酸區	0	50	5	2	200	新
C	磷酸石灰施用區	15	50	5	2	200	新
D	標 準 區	15	50	5	2	200	舊

備考 1. 開墾初年目は堆肥施用せず

2. 作付する都度上記肥料を施用す

供試作物は46種の作物を用ひ、一區面積を2—3坪

とした。

1. 供試圃場は極めて地力に乏しく生産力が低位であつた。

2. 土壤酸度に對して強い作物は磷酸を施用することによつて収量を増加することが出来た。

A區の収量が標準比率60%以上のものは次の通りでこれ等の作物は適作物と考へられる。

穀類      ライ麥, 陸稻, 蕎麥

豆類      落花生, 小豆

いも類    甘藷, 馬鈴薯, 里芋

瓜類      西瓜

蔬菜類    大根, 山東白菜, トマト

特用作物    けなふ, 菜種

飼料作物    向日葵, 菊芋

綠肥作物    ルーピン

3. 石灰を施用しても磷酸を施用しない區に於ては麥類は收穫皆無であつた。然しのりあき, 向日葵, 里芋, 甘藷等は何れも可なりの収量(標準比率70%以上)を示したことは注目される。

4. カロリー生産能力の大なるものは適作物と考へられる。次の作物は比較的大なるものであつた。甘藷, 馬鈴薯, 里芋, 落花生, 陸稻, ライ麥。

5. 石灰と磷酸を併用すれば, 開墾二年目に於いて供試作物の中半數は標準區の収量に近い収量を示した。